

# Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool

# SORA

web magazine 2019.sep. vol.121

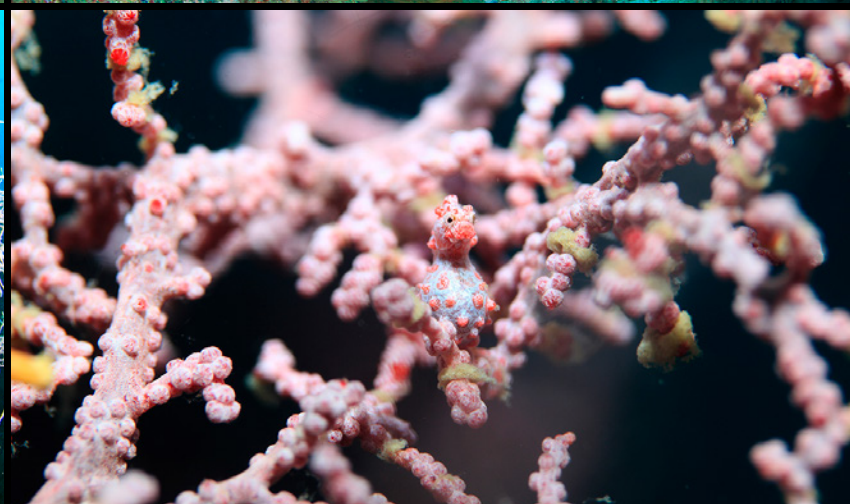
Photo & Text : Yasuaki Kagii

**SORA初公開!**  
**ラジャアンパット・**  
**ミソールエリアでのダイブクルーズ**  
**無垢な海底の彩り&群れ**

今回はラジャアンパットのセントラルエリアだけではなく、南に位置するミソールエリアにも行く少し長めのクルーズ日程。通常はセントラルや北側を中心に、日本発着1週間のラジャアンパットクルーズが主流。しかし、今回は全11日の行程で、中7日間ダイビングを行ってきた（5日間はミソールエリア、2日間はセントラルエリア）。日本を出発し、ジャカルタ、マッカサル、ソロンと乗り継ぎ、パヌニー号に乗船したのは翌日の午前中。その日はダイビングはなしで、南のミソールエリアにパヌニー号は移動を開始した。



# Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool



## 初日にミソールの海の実力を垣間見る

乗船当日夕方に、船に関する詳しいブリーフィングが英語で行われた。翌日7時からブリーフィングがあり、1本目のダイビング。ポイント名はFron Slope。島影でのダイビング。チェックダイブを兼ねているために、潮の流れのない砂地のスロープのポイント。それでもサンゴは豊かで、少し深場には、エレファントイヤースポンジが連立し、面白い景観が続いている。マクロの生き物では、ガイドにビッグミノーホースなども見せてもらった。

2本目のポイントは Three sisters。潮の流れが当たるポイントで、島影からエントリー。潜降してすぐに気が付いたのは、浅い深度からカラフルなソフトコーラルが群棲している。そして、ウミウチワやヤギの仲間がたくさん生えている。「これはすごい! ラジャのセントラルでもあまり見たことがない景色かも知れない! いや、ラジャ以外でもあまり見かけないかも! 無垢な感じがとても良いし、その景色が奥までずっと続いているのがまた嬉しい」と、私は夢中になりながら大小様々な生き物の撮影に没頭する。しかし、見た目は美しいのに、うまく写真にまともらない。自分の能力のなさを恥じ、もっと躍起になって撮影を続ける。ガイドがマクロの生き物を教えてくれても、興味を示さず、ワイドの景色に没頭した。同じグループのメンバーは、カメラやカムリブダイの群れを見たそうだが、私は見ず……。エキジットして、ガイドに「このワイドの景観は本当にすごいね!」と興奮して言うと、「ミソールの海底は、ずっとこんな感じだよ!」と教えてくれた。まだ時間はある。素敵な1枚を絶対に撮影しようと心に誓った。





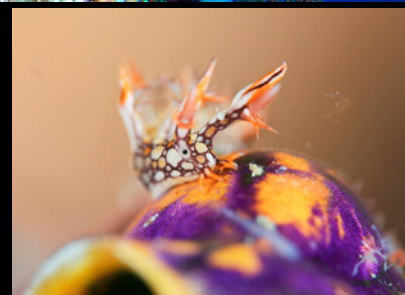
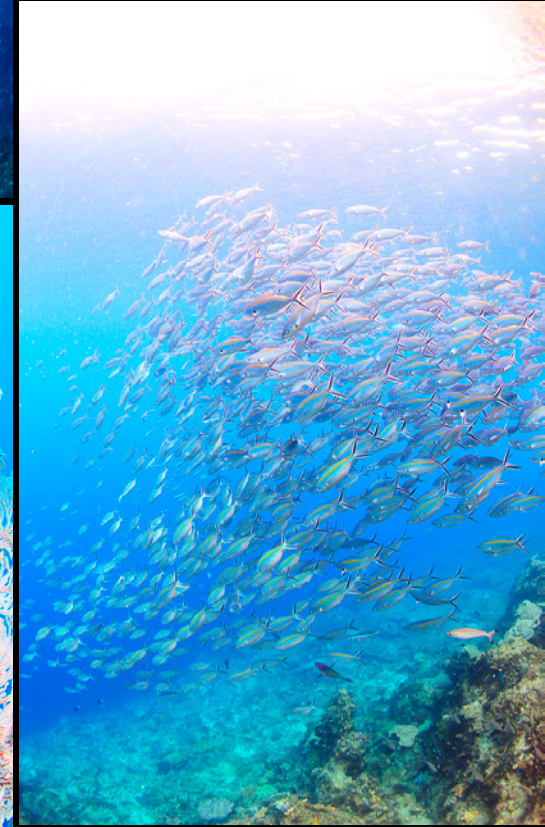
# お魚たちがダイバーを警戒しない Two tree rock へ

3本目は Two tree rock へ。水面から突き出た小岩のてっぺんに木が2本生える特徴的な島で、その不思議な雰囲気は水中へと繋がる。細長い根の周囲には見所が3カ所ほどあり、その辺りでは不思議とお魚がごちゃりと溜まっている。そこに滞りして撮影を続けていても、お魚たちは逃げることもなくずっと近くに居てくれる。時折少し離れようとするが、少しするとまた目の前にやって来てくれる。ここではダイバーとお魚の関係は、少し特別かもしれないと思った。

そして4本目は、ほぼ毎晩開催されるナイトダイビングに参加。それほどすごい! という1ダイブではなかったが、ウミウシやデコレーションクラブ、また青く発光する物質を海中にぶち撒け、まるで花火のような輝きがあった小さなエビには感動した。



## Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool





# Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool



## どのポイントに潜っても美しい景色+賑やかな魚群

ダイビングの2日目。1本目は Karang bayanga へ。ミソール地域でも人気のポイント。水深10mの大きなサンゴの棚があり、そこはお魚たちが密集している。ホソフエダイ、オヤビッチャ、キンギョハナダイなどなど。それを狙ってロウニンアジなどがハンティングにやってくる。一度ロウニンアジが動き出すとそこは饗宴状態で、海の中の様々なものがスピーディに動く。細い根があり、その先端ではマンタが見られた。海中はお魚で溢れ出すような素晴らしいポイントだった。

2本目は少し移動して Boo window。水面に突き出た根のすぐ下に大きな穴があり、そこが窓のようになっている。大きさの違う穴が3つある。覗きこむと、向こう側にはユメウメイロやクマザサハナムロが群れていて、良い感じ。またそこには、餌を夢中になって食べるカンムリブダイがいて、かなりの接近を許してくれる。水深20mほどの根の先端にも、ユメウメイロやクマザサハナムロが群れていて、その群れの大きさは視界を埋めつくすほどだった。

3本目は Bon Jovi というポイントへ。簡単に周れそうな根を1周する。ブリーフィングでは、小魚がたくさん集まっ  
ていて、それを捕食しにモブラの群れが現れると言っていたが、その小魚の姿が一切見えず、モブラの姿も確認  
できなかった。しかし、リーフの上はユメウメイロやクマザサハナムロが群れていてとても賑やかだった。

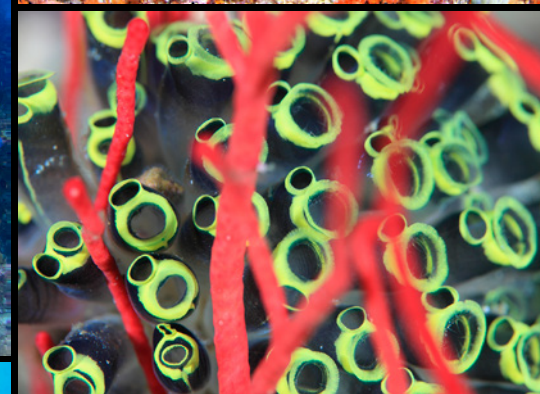




## 他の国のフォト派ダイバーも虜にする海底

ダイビングの3日目、1本目は再び Karang bayanga へ。このポイントは周囲にあるリゾートが管理しているために、ダイバーが入るタイミングが制限されている。なので仕切り直して再びエントリー。壁にはイソバナなどがたくさん群棲し、根元のクリーニングステーションでは、ナポレオンやヤッコの仲間が行き来する。また、朝一口ウニンアジがハナム口の仲間を襲おうと常に戦闘態勢なので、その緊張感が水を通して伝わる。捕食中のタイマイなどにも会えた。

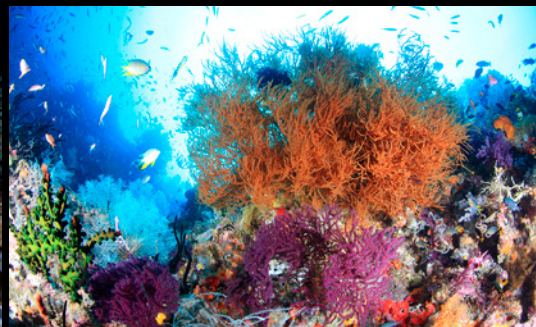
2本目と3本目は Whale rock と Nudi rock へ。隣り合うポイントで、水面から突き出た島の形が、それぞれクジラとウミウシに似ている。島をぐるっと1周できる大きさで、潮あたりの良い場所では、お魚たちが群れ、魚影も濃い。また、水深8mの棚のサンゴは本当に美しく、様々なサンゴのフォーメーションが見られる。面白かったのは、潮当たりの少ないエリアで、とてもカラフルなソフトコーラルが群生していた。光が差す浅い水深で、肉眼でも見事な色が広がっていた。同乗していたタイ人フォト派ダイバーグループはそこから動かず、ずっと撮影を続けていた。



## Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool



# Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool



## ラジャアンパットの海の特徴を知り、より楽しめた後半

ダイビングの4日目。1本目は、Four king。海底から垂直に立ち上がる円錐形の根が4つ。その根の周囲で潜っていく。ブルーウォーターには、小規模だがギンガメアジやバラクーダが群れ、クマザサハナムロの群れと混じっている。根の上には、大きなスリバチカイメンや亀裂があり、地形、造形的にも楽しむことができる。垂直のドロップオフの地形から冒険ダイブを楽しむことができる。

2本目のダイビングは Jamur。ここはとにかくカラフルなポイントで、ウミシダ、ヤギ、ウチワなどなど色とりどりの生物が壁を彩る。そこにタデジマキンチャクダイ、アデヤッコやチョウチョウウオなどが現れる。潜ると不思議と元気が湧いてくるポイントでもあった。

3本目は Baccuda。1周できる大きな根を潜る。見どころは浅瀬のカラフルな景色。水深5mほどの浅瀬、ちょうど水面から突き出た岩がマッシュルーム状になった傘の下は、オレンジ色のソフトコーラルが群棲し、赤いイソバナが連立する。そこにロクセンヤッコがクリーニングにやってきました。キンギョハナダイも群れている。また、角度によっては、太陽の光が水中に飛び込み、シルエットも美しい。



# ミソールの印象

ミソールエリアでの最終日は、再び Bon jovi と Two tree rock へ。数日前に潜ったポイントなのに、潮の流れが変わるだけで、随分と海中の様子も変わってくる。特に Bon jovi では、トブリーフを埋め尽くしていた魚群が、潮あたりの良い場所に移動して、同じポイントではないような趣きがあった。ここも潮の流れに左右されるポイントであることを知った。今回、ラジャアンパットのミソールエリアに初めて潜り感じたのは、まだ手つかずの無垢な海底であるということ。最近ではダイブクルーズ船が増え、訪れるダイバーも随分と増えたようだが、それでも、まだまだ人の目に触れていないエリア。ギンガメアジやバラクーダの群れといった、分かりやすい大物には会えなかったので、写真での魅力は伝わりづらいかも知れないが、どこも豊かなサンゴなどに覆われ、ソフトコーラルなどが彩りを添えていた。サンゴ礁が豊かな海底で、「サンゴは美しいけど、お魚がない」といった場合も多いが、ミソールエリアは違った。どこに潜っても豊かな魚群が私たちダイバーを待ち受けてくれた。たくさんの海に潜ったダイバーなら、よりこのミソールエリアの繊細な海底を楽しめると思う。他の海では得られ辛くなった「生まれたばかり」感がこの海には残っているから。そして、ラジャアンパットのセントラルエリアまで約8時間の移動を開始した。

Indonesia *Travel*  
Raja Ampat,  
Misool





# Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool



## ラジャアンパットのセントラルエリアに移動 お魚まみれになる Aerborek jetty へ

ダイビング6日目の2本目、Aerborek jetty へ。ここは栈橋の下にアジの大きな群れがあることで有名。エントリーして、栈橋に接近していくと、巨大な黒い物体が水中に浮かんでいる。近づいていくとそれはアジの群れで、まるで煮めく生き物のように絡み合っている。彼らはほとんどのその場所から移動しないので、もう撮影し放題。上から横から中から下から、みんなカメラを持って各々の場所から撮影を始める。以前撮影した時は、アジの群れに圧倒されてそればかり撮影していたが、今回は少し余裕もできたので、周囲に広がる美しいサンゴの背景にアジを写し込んでみた。この豊穡の海を表現した1枚が撮影できた。







## ラジャアンパットの代表的な景色&ポイント Cape Kri

ダイビング6日目の3本目と翌日のダイビング最終日の1本目は、Cape Kriにエントリー。潮の流れに乗りながらリーフをドリフトダイビングしていく。まず最初に出会ったのが、リボンスイートリップスの群れ。潮の流れによって、海底にこんもりと群れている時もあれば、風船のように水中に立ち上がっている時もある。他ではあまり見ない魚群を撮影し、ガイドさんが紹介してくれるピグミーシーホースやジョーフィッシュを見ながら、潮の流れに身を任す。ブルーウォーターでまず見つけたのは、真っ赤なビンジャロスナッパーの群れ。そしてアジの群れも頭上にやってきた。他のチームのガイドが、バンバンバンとタンクバンガーを鳴らしているので、注意深く周囲を見ているとマンタが悠然と泳いでいた。昨日、Manta Sandy ではうまく撮影できなかったので、今回、会えて本当にラッキーだった。そして、またフエダイの群れなどを撮影しながら、進んでいくとちょうどリーフエンドのところに、ギンガメアジとバラクーダが群れていた。その下を見るとキツネフエダイなども群れている。このポイントの魚群の濃さに驚きながら、安全停止まで繋げていった。

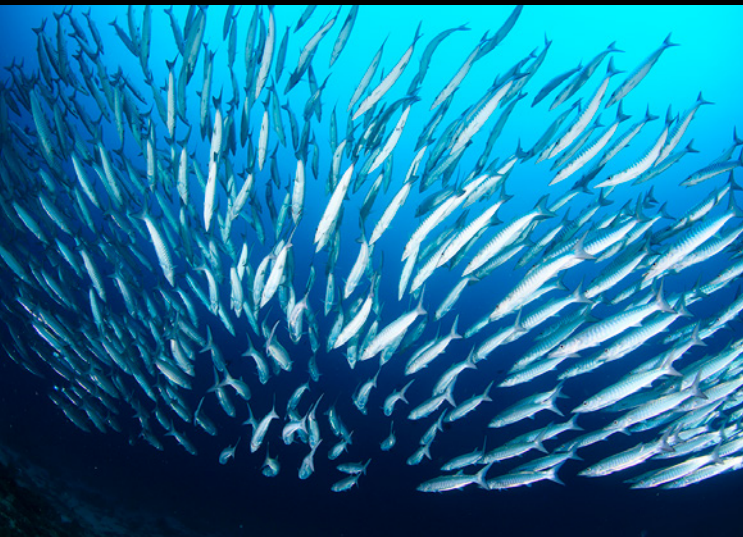


# ラストダイブは、Blue Magic で魔法が終わる

最終ダイブは、ラジャアンパットのセントラルエリアでも人気ポイント Blue Magic へ。潮あたりの良い根では、お魚たちがダイバーを待ち受けている。潮の上手で待っていると、眼前にウメイロモドキが群れ、それを狙ってロウニンアジが徘徊している。リーフエッジには、カマスが大きな群れを作り、ゆっくりと泳いでいる。同じく中層では、大きなギンガメアジの群れと遭遇。そこにいるすべてのダイ

バーを受け入れるように静かに泳ぐ。フォト派ダイバーの接近を許しては、間近でしか味わうことのできない感動をあたえてくれる。岩の下では、ラジャアンパットではよく見かけるオオセが寝ていた。本当はマンタが現れるポイントとして有名なのだが、今回は現れず。それでも Blue Magic で最高の最終ダイブを終えた。

## Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool







# Indonesia *Travel* Raja Ampat, Misool

## 冒険心溢れる パヌニーヨット

インドネシアの面白い海を中心にダイビングクルーズを展開するパヌニーヨット号。オーナーのジャクリン氏が熱狂的なフォト派ダイバーで、彼が興味のある面白い海ばかりを、このクルーズ船は展開してきた。これまでにニコバル・アンダマン諸島の泳ぐ象のクルーズ、デラワン・サンガキ・マラトゥア・カカパンのクルーズなどなど。世界の面白い海を知りたい&写真を効率良く撮りたいダイバーにとって、彼は特異な存在であり、私個人（鍵井）としても、その行動力に全く脱帽している。通常のラジャアンパットクルーズに加えて、今回のミソールエリアでのクルーズ展開も大変に面白い試みだと思う。パヌニーは、日本人ダイバーには、もうお馴染みになったダイブクルーズ船で、約1年前にリノベーションを行なった。もともと清潔感のある船だったために大きな変化はないが、客室や水回りなどが改善された。今年、インドネシア船籍となったが、シェフはタイ人のままで、味にこだわっている。お母さんのようなタイ人シェフが作る料理は毎回本当に美味しく、ダイビングと同じくらい船の楽しかった。ダイビングは後方の広いダイブデッキで準備し、2艘のディンギーでポイントに向かう。1グループは6名まで。取材時は日本人ガイドの拓郎さんも乗船していたので、言葉の心配もなかった。ダイブスケジュールは、午前2ダイブの午後1ダイブ。それにサンセットカナイトダイブの計4ダイブが可能。

